若山牧水が賞賛した景勝・黒岩渓谷を跨ぐ橋

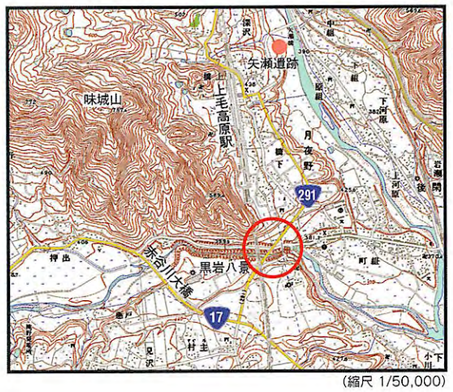
黒　岩　橋 くろいわばし

黒岩橋は、国道17号月夜野バイパスと上越新幹線・上毛高原駅を結ぶ国道291号の道路整備の一環として建設された橋です。新治村との境にある味城山南麓の緑色凝灰岩を赤谷川の渓流が浸食してできた黒岩渓谷には、「扇岩」や「衣掛山」など八つの奇岩があり「黒岩八景」と称され、詩情の対象となっています。黒岩橋は、これらの周辺環境との調和を考慮して設計された橋梁でもあります。橋周辺には3千年前の村の姿を復元した矢瀬遺跡を中心とする矢瀬親水公園があります。

縄文時代の遺跡を復元した矢瀬遺跡

概要

所在地	利根郡月夜野町月夜野～月夜野町上津
路線名	国道291号
年　代	昭和57年（1982）
構造形式	2径間連続PCT型ラーメン橋
主要諸元	橋長166.0m　幅員11.5m
管理者	群馬県



（縮尺 1/50,000）

黒岩渓谷の美しさと調和した鉄道アーチ橋

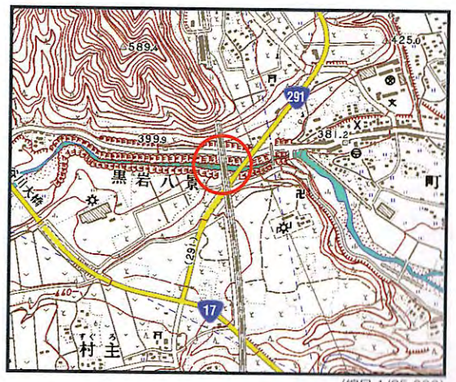
赤谷川橋梁 あかやがわきょうりょう

赤谷川橋梁は、鉄道橋としては国内最大級のコンクリートアーチ橋で、世界でも稀な鋼トラス併用の張出し架設工法で架橋されました。赤谷川橋梁はアーチの高さ（ライズ）70m、アーチ支間126mの逆ランガー橋で、5径間連続箱桁形式の補剛桁を薄厚の折線形のアーチで支える構造となっており、大空に描かれるアーチは軽快な印象を人々に与えています。眼下に広がる黒岩八景は詩人・若山牧水も賞賛した景勝の地で、赤谷川橋梁は自然が創りだした渓谷美との調和に配慮した橋として高く評価されています。昭和54年度土木学会田中賞（作品部門）受賞。

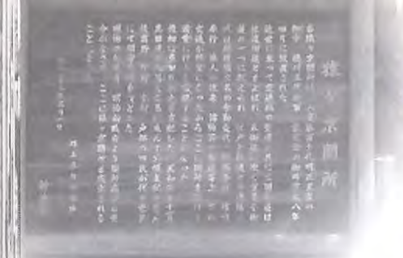
紅葉の黒岩渓谷

概要

所在地	利根郡月夜野町月夜野～月夜野町上津
路線名	JR上越新幹線
年　代	昭和54年（1979）
構造形式	RC逆ランガーアーチ橋
主要諸元	橋長298.0m　幅員12.0m
管理者	JR東日本



（縮尺 1/25,000）



雄大な猿ヶ京の景観に浮かぶ朱色の橋

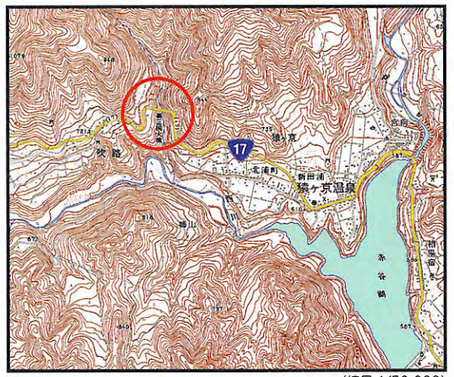
新三国大橋 しんみくにおおはし

猿ヶ京渓谷に架かる国道17号・新三国大橋は、支間141．2mの鋼ランガートラス橋で、架橋当時は日本最長の鋼ランガートラス橋と言われました。三国峠越えの街道は、江戸時代には三国街道と呼ばれ五街道に次ぐ重要な街道でありました。また寛永8年（1631）には猿ヶ京関所が設置されるなど交通の要衝でもありました。猿ヶ京関所資料館には往時の古絵図や武具、手形などが展示され、街道の風景を今に伝えています。猿ヶ京の豊かな自然は、時の流れと共に上越国境を行き交う人々の姿を見守り続けています。

猿ヶ京温泉

概要

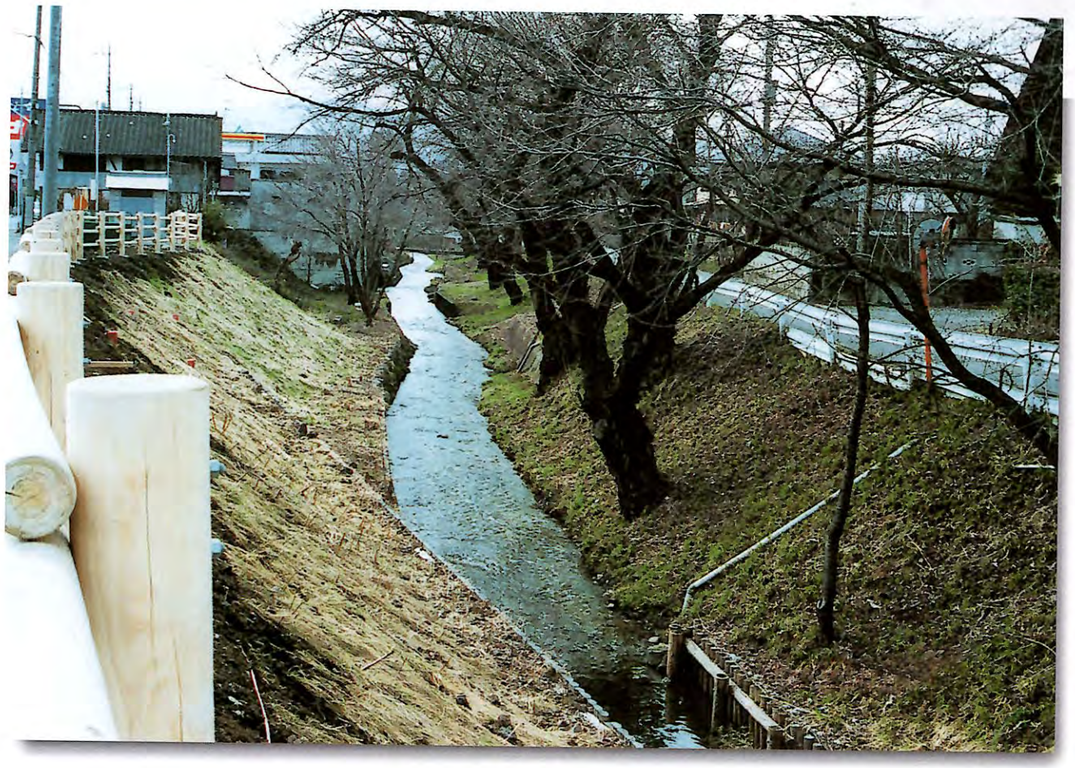
所在地	利根郡新治村猿ヶ京～新治村吹路
路線名	国道17号
年　代	昭和38年（1963）
構造形式	鋼ランガートラス橋
主要諸元	橋長141.2m　幅員7.0m
管理者	国土交通省



（縮尺 1/50,000）

沼田台地の開発と発展の礎となった用水

城　堀　川（滝坂川） しろぼりがわ（たきさかがわ）

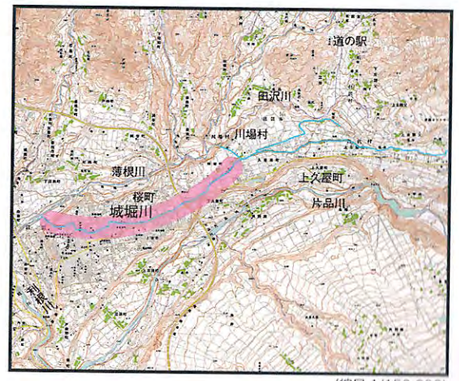


享禄3年（1530）沼田顕泰による倉内城（沼田城）の築城に際し、生活・灌漑用水路として整備された白沢用水（延長16km）は、白沢川上流の松が窪（白沢村）で取水し、現在の沼田市内を潤しました。後にこの用水路は水需要の増大に伴い、新たに開削された川場用水と合流し、沼田台地の開発、発展に大きく貢献しました。川場用水との合流点より下流は城堀川として今日でも残っています。

沼田城趾雪景

概要

所在地	沼田市内
河川名	滝坂川
年　代	16世紀～17世紀半ば
構造形式	素堀水路
主要諸元	水路幅10.0m 高さ5.0m～10.0m
管理者	沼田市



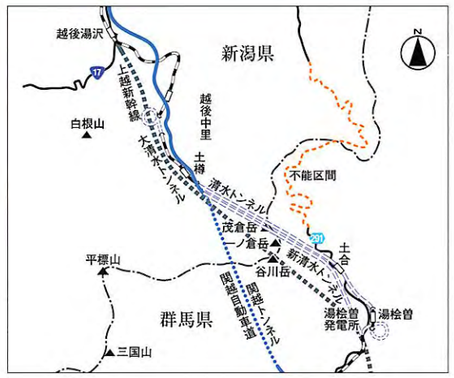
（縮尺 1/150,000）

清水トンネル しみずとんねる

概要

所在地	利根郡水上町～新潟県湯沢町
路線名	JR上越線
年　代	昭和6年（1931）
構造形式	馬蹄形
主要諸元	延長9,702m
管理者	JR東日本

清水トンネルが縦貫する谷川岳・一ノ倉沢



関連DATA

新清水トンネル坑口（湯檜曽駅）

土合駅の下りホームはトンネル内にある

清水トンネルの掘削工事写真

谷川連峰の厳しい山々を貫き太平洋側と日本海側とを連絡する鉄道計画は、明治25年（1892）に建設が認められていましたが、信越本線の出現により一時立ち消えとなっていました。その後、大正7年（1918）に上越線の建設計画が決定すると、高崎と渋川間が大正10年（1921）に開通、以後沼田、後閑へと鉄路を順次延長し、昭和3年（1928）に水上まで開通するに至りました。しかし、水上と越後湯沢間は駅間の高低差が大きく、鉄路としては勾配が急すぎるなどの課題がありました。

そこで考案されたのが谷川連峰の直下に直径800mのループ式のトンネルを建設し、駅間の高低差を調整する方法でした。大正11年に（1922）着工、昭和6年（1931）に開通した清水トンネルは、開通当時は世界最長の山岳トンネルでしたが、その誕生には9年の歳月とともに数多くの建設作業者が犠牲となりました。

水上と越後湯沢間が開通したことにより上越線は全面開通し、東京と新潟間は約4時間も短縮されることとなり、人や物の交流は一層活発になりました。

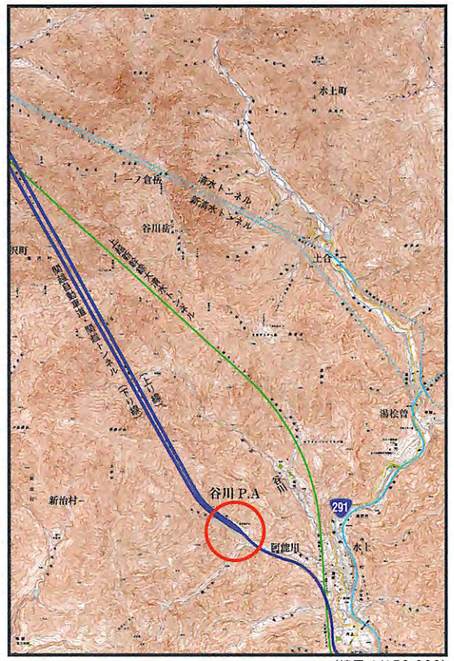
このトンネルを境に気候が一変する様を表現した川端康成の『雪国』の書き出し、「国境の長いトンネルを抜けるとそこは雪国だった」はあまりに有名な文章です。この越後湯沢を舞台とした二人の恋を叙情的に描き出した小説・雪国のトンネルは、この清水トンネルです。

時が流れ、トンネル掘削技術の進歩とともに谷川連峰の直下には、上越線の複線化に伴い新清水トンネル（全長13,490m、昭和38年（1963）着工）が昭和42年（1967）に完成し、さらに上越新幹線の大清水トンネル（全長22,221m、昭和46年（1971）着工）が昭和57年（1982）に完成しました。さらに、今日では関越自動車道の関越トンネルなど多くのトンネルが上越国境に建設されています。

清水トンネルが我が国の経済や人・物の交流などに与えた影響は非常に大きなものがありました。それは日本の歴史の1ページに確かな足跡を加えたといっても過言ではありません。

関越トンネル かんえつとんねる

谷川連峰をのぞむ水上側坑口

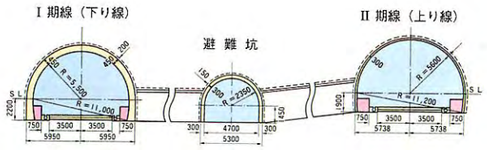


(縮尺 1/150,000)

関連DATA

全断面掘削工法に使用された油圧式ガントリージャンボ

最新技術を駆使したトンネル内部



標準断面図

概要

- 所在地　利根郡水上町～新潟県湯沢町
- 路線名　関越自動車道
- 年　代　昭和60年（1985）、平成3年（1991）
- 構造形式　主トンネル2本（上下線）
- 主要諸元　上り線＝11,055m　下り線＝10,926m
  幅員11.5（7.0）m
- 管理者　日本道路公団

谷川連峰の直下、上越県境を連絡する関越自動車道・関越トンネルは、道路トンネルとして国内最長のトンネルであり、世界屈指の設備を誇るトンネルでもあります。

古くから関東と新潟を結ぶルートには、清水峠越えのルート（清水往還）と、上野、越後、信濃の三国の境にある三国峠を越えるルートがありました。

しかし、清水峠越えのルートは、険しい山越えの道で降雪の多い冬季には通行は不可能でした。本格的に関東と新潟の交通が拓けたのは昭和32年（1957）に三国トンネルが開通し、国道17号三国道路が開通してからのことです。しかし、この国道17号も冬季の積雪や路面凍結が大きな障害となっており、月夜野・湯沢間に約1時間30分を要していました。

関越自動車道・関越トンネルの開通は、四季を通じての安全な交通を確保するとともに、高規格な道路の恩恵により月夜野と湯沢間を約30分短縮するなど、我が国の産業・経済や人的交流、観光などに大きな役割を果たすことになりました。

昭和60年（1985）に下り車線が完成し対面交通による供用が開始されましたが、交通量の大幅な増加に伴い、平成3年（1991）に4車線全面が開通することとなりました。（総事業費約1,060億円）

関越トンネルは全長11,055mと長大な道路トンネルであるため、排気ガス処理、火災時の対策などを考慮する必要がありました。このため車道トンネルの他に避難用トンネルや集塵室、地下換気所、立坑などが設置され、世界で最初に電気集塵機付立坑送排気型縦流換気方式が採用されています。また、これらのハイテク設備を高度な監視・防災システムで総合的に制御するなど先端の技術を駆使しています。

さらにトンネルの坑口付近では、トンネル内との気象条件が極度に異なるためにさまざまな雪氷対策が行われています。まさに関越トンネルは国内で数少ないハイテクトンネルと言えます。

谷川岳と水上温泉

暮らしと観光を支える日本ロマンチック街道のトンネル

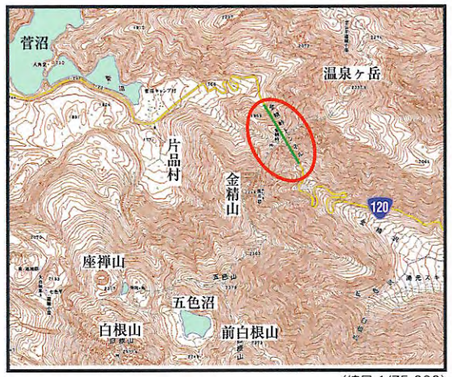
金精トンネル こんせいとんねる

沼田街道と片品村鎌田で分かれ、途中丸沼高原を経て日光・中禅寺湖に至るルートは、日本ロマンチック街道と呼ばれています。この街道の栃木県境にあるのが金精峠（標高2024m）で、金精トンネルはこの直下を貫くトンネルです。降雪の多い冬季には閉鎖されますが群馬・栃木両県の交流には不可欠のトンネルです。また、峠から見る男体山や湯ノ湖の景色は絶景で、詩人・若山牧水も大正11年（1922）にこの地を訪れています。

日光白根山

概要

所在地	栃木県日光市～利根郡片品村東小川
路線名	国道120号
年　代	昭和39年（1964）
構造形式	コンクリート覆工
主要諸元	延長755.0m　幅員7.5m
管理者	栃木県



（縮尺 1/75,000）

佐久発電所を支え続けた取水ダム

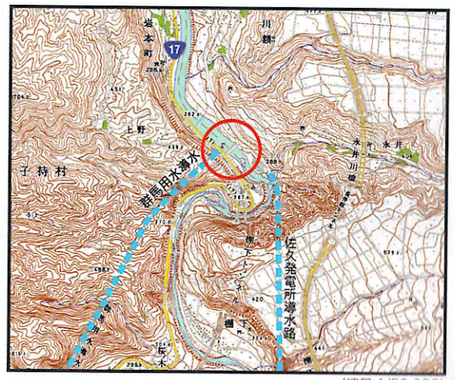
綾戸ダム あやどだむ

綾戸ダムは、浅野セメントの創始者である浅野総一郎氏が経営する関東水力電気会社佐久発電所の発電用取水ダムとして、昭和3年（1928）に建設されたダムです。左岸取水口から取水した水を約15km離れた北橘村真壁にある真壁ダムに貯水し、水圧鉄管によって佐久発電所に運び発電に利用しています。また、綾戸ダムの右岸側には、生活・農業用水として利用されている群馬用水の取水口があります。

左岸沈砂池

概要

所在地	利根郡昭和村川額・沼田市岩本町
河川名	利根川
年　代	昭和3年（1928）
構造形式	重力式コンクリートダム
主要諸元	堤長118.6m　堤高14.45m
管理者	東京電力（株）



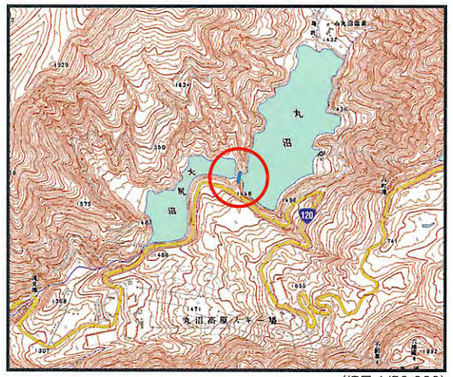
（縮尺 1/50,000）

丸沼ダム まるぬまだむ

概要

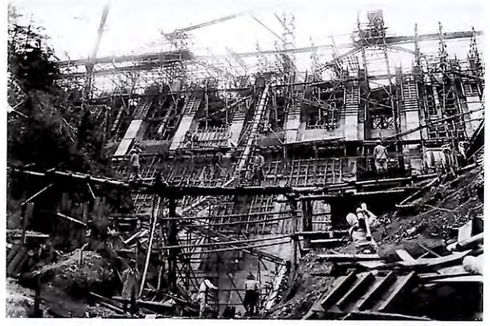
所在地	利根郡片品村東小川
河川名	利根川水系　丸沼
年　代	昭和6年（1931）
構造形式	バットレスダム
主要諸元	堤長88.2m　堤高32.1m 総貯水容量13,600千m³
管理者	東京電力（株）

冬の丸沼ダム

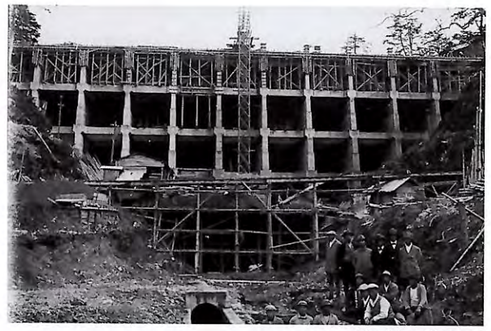


（縮尺 1/50,000）

関連DATA

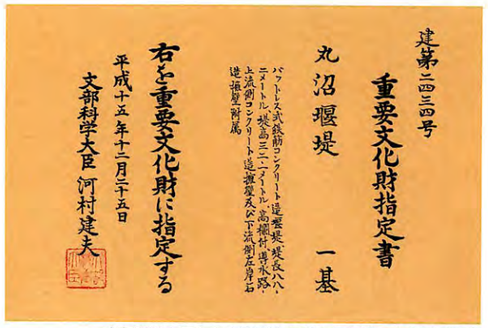


バットレス施工―1



バットレス施工―2

現在のバットレス



建第二四三四号
重要文化財指定書
丸沼堰堤　一基
バットレス式鉄筋コンクリート造堰堤（堤長八十八・二メートル、堤高三二・一メートル）、導水路
上流側コンクリート造擁壁及び下流側左岸石造
造堰堤二附属
右を重要文化財に指定する
平成十五年十二月二十五日
文部科学大臣　河村建夫

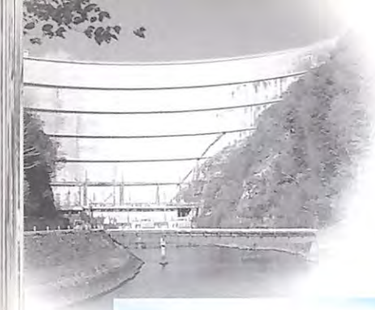
文部科学大臣から丸沼ダムに贈られた重要文化財指定書

丸沼、菅沼、大尻沼の三つの湖は、日光白根山の火山噴火にともなう溶岩流が大滝川を堰き止めたことにより生まれた典型的な「堰止め湖」です。丸沼ダムは、大尻沼と丸沼の間に建設され、「バットレス構造」と呼ばれる特殊な構造で知られます。水圧を支える遮水壁を鉄筋コンクリート造りの柱と梁を格子状に組み合わせて補強するバットレス構造は、重力式のコンクリートダムなどと比較すると複雑な構造となっています。

このダムの耐震設計には、当時日本の耐震設計に関する第一人者であった内務省土木試験所長の物部長穂氏が提唱する「耐震構造理論」が適用され、丸沼ダムはこの理論を適用した最初のバットレスダムと言われています。

ダムの工事は昭和3年（1928）に当時の上毛電力社により着工され、昭和6年（1931）に完成しました。設計と現場工事の指揮は、北海道電力社の生みの親としても高名な岩本常次氏が担当したと言われています。丸沼ダムは、国内に建設された他のバットレスダムに比較しても、堤高、湛水（たんすい）面積、総貯水容量などが群を抜いて大きく、しかも電子計算機などがない昭和初期に、このような複雑な構造のダムを設計、施工したことについて高く評価されています。昭和初期に建設されたバットレス構造のダムは、国内に8基建設されていますが、丸沼ダムを含めて現在6基が稼働しています。

バットレスダムの希少性、ダム規模の大きさ、さらに先進的な理論による設計、丁寧で高度な施工技術など、丸沼ダムは、我が国屈指の近代化土木遺産であることから、平成13年（2001）土木学会より「土木学会選奨土木遺産」に選定されました。さらに、平成15年（2003）に発電用ダムとしては国内初の国重要文化財に指定される栄誉を得ることとなりました。



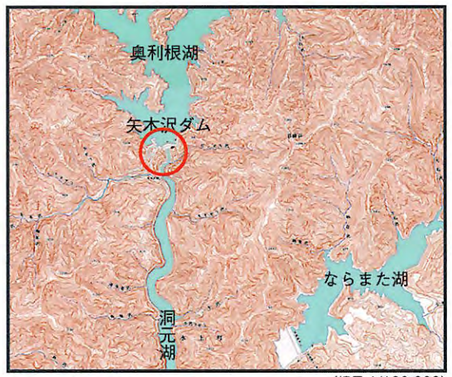
湖水に映る山々が美しい、利根川水系最大のダム

矢木沢ダム（奥利根湖）やぎさわだむ（おくとねこ）

矢木沢ダム・春夏秋冬

概要

- 所在地　利根郡水上町藤原
- 河川名　利根川水系
- 年　代　昭和42年（1967）
- 構造形式　アーチ式コンクリートダム
- 主要諸元　堤長352.0m　堤高131.0m
  総貯水容量204,300千m³
- 管理者　（独）水資源機構（旧水資源開発公団）



（縮尺 1/100,000）

関連DATA

矢木沢ダム堤体

奥利根湖全景

大水上山の利根川水源の碑

矢木沢ダムが渇水した際の珍しい写真

矢木沢ダムは、堤高131mのアーチ式のコンクリートダムで、利根川本川の最上流部に建設された多目的ダムです。ダム建設地は、我が国有数の豪雪地帯で、厳しい自然環境のなか、約8年の歳月を要し昭和42年（1967）に完成しました。

矢木沢ダムは昭和14年（1939）に建設が計画されたものの戦争のために建設が中断されました。

しかし、昭和34年（1959）に増大する首都圏の水需要に対処するため、また、利根川流域の洪水調節、農業用水の供給、発電などを目的としてダム建設が着手されました。このダムの堤体の構造は、非越流型のアーチダムを中心に、右岸上部にウィングダムと呼ばれる重力式コンクリートダム、脇ダムにアースダムと三種類の形式のダムを配する、極めて稀なダムでもあります。ウィングダムには、洪水吐として2本のローラーゲートが設置され、500m下流まで水路で通し、スキーのジャンプ台のような形状の排出口からダイナミックな放水を見ることができます。

この利根川水系最大のダムでは、昭和40年（1965）12月よりダム直下の東京電力・矢木沢発電所において下流の洞元湖と併せて最大出力24万kwの揚水式発電を行っています。また、矢木沢ダムの建設により生まれた「奥利根湖」は、ブナの原生林に囲まれた人工のダム湖で、ダムの堤頂部からの景観は迫力に溢れた大パノラマとなって、訪れる人々に壮大な展望を提供しています。近年では多くの観光客や太公望がこの地を訪れるようになり、秘境は次第に開かれていくようです。

大自然の中に美しさと雄大さを持つロックフィルダム

奈良俣ダム（ならまた湖）ならまただむ

概要

- 所在地　利根郡水上町藤原
- 河川名　利根川水系樽俣川
- 年　代　平成3年（1991）
- 構造形式　中央遮水壁型ロックフィルダム
- 主要諸元　堤長520.0m　堤高158.0m
  総貯水容量90,000千m³
- 管理者　（独）水資源機構（旧水資源開発公団）

奥利根の山々と静寂のならまた湖

（縮尺 1/100,000）

関連DATA

新緑の奈良俣ダム

濃霧に浮かぶロックフィルダム

紅葉に清冽な照葉峡

冬の奈良俣ダム

奈良俣ダムは、赤倉山の南面に源を発する利根川上流左岸の支川、樽俣川に建設された多目的ダムです。このダムは洪水調節、水道用水・農工業用水の供給と水力発電を目的として、昭和56年（1981）に着工し、約8年の歳月を要して完成した巨大なロックフィル式のダムです。総貯水量は約9,000万m³、霞ヶ関ビル約180杯分にあたり、水力発電所の最大出力は12,400kw。堤高158mは国内3位で、堤体積は国内1位の規模を誇ります。

コンクリートダムにない雄大な機能美を描き出す奈良俣ダムは、奥利根の自然環境と見事に調和していますが、その理由の一つにリップラップと呼ばれるロック材に白い石を使用し、ダムの表面保護や景観への配慮に役立てていることがあります。堤頂部に向かってなだらかな傾斜で伸び上がっていくロックフィルダムは、丁寧に、かつ丹念に岩石等を積み重ねる作業の繰り返しの果てにできたもので、ひたすらに雄大で美しいものです。ダムの堤頂には遊歩道が設置され、ダムや周辺の山々を眺めることができ、その巨大さと美しさに感嘆することでしょう。

ダムの周辺には、広場、ダムサービスセンター、奥利根の自然を一望にする展望台、映像・パネル・模型などが整えられた資料館もあり、散策・探訪に適しています。また、ダムサイトからは、奥利根の山々を背景に「ならまた湖」が映し出す新緑や紅葉など、自然が描き出す四季折々の美しい風景を見ることができます。魅力にあふれた奈良俣ダムとその周辺には、関東の奥入瀬と称される木ノ根沢の照葉峡や水源の森百選に選ばれた奥利根水源の森などがあり、是非一度は訪れたい観光スポットでもあります。

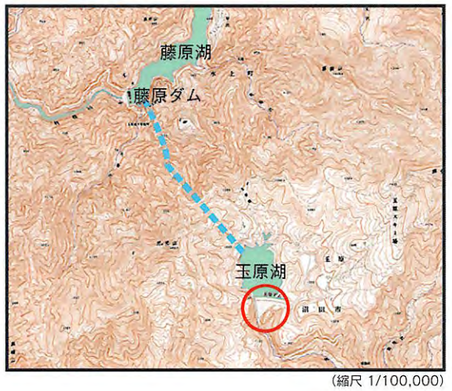
世界最大級の有効落差518m、全揚程559mを誇る威容

玉原ダム（玉原湖）たんばらだむ（たんばらこ）

概要

所在地	沼田市迦葉山
河川名	利根川水系発知川
年　代	昭和57年（1982）
構造形式	中央遮水壁型ロックフィルダム
主要諸元	堤長570.1m　堤高116.0m 発電所出力120万kw、有効落差518m
管理者	東京電力（株）

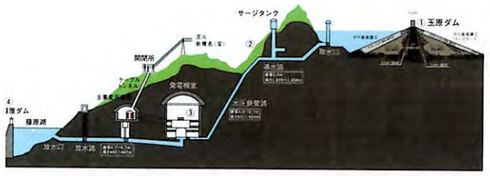
岩石・砂レキを積み上げたアウターシェル



（縮尺 1/100,000）

関連DATA

サージタンクと水圧鉄管の一部



ダムと発電所のしくみ

地下発電室

関東随一のブナ原生林

沼田市北部の発知川最上流部にある玉原ダムは、堤高116m、堤頂長570.1m、総貯水量1630万トンで、周囲4.5kmの人造湖を持つロックフィルダムです。純揚水式発電所である玉原発電所の上ダムとして、昭和57年（1982）に東京電力によって建設されました。純揚水式発電とは2つのダムの高低差を利用して発電をする方法で、上ダムから下ダムへと落下する水の勢いを利用してタービンを回して発電し、下ダムに溜まった水は夜間の余剰電力を利用して上ダムへと再び汲(く)み上げます。上ダムにあたる玉原ダムと下ダムにあたる藤原ダムとの有効落差は518m、全揚程は559mもあり、純揚水式発電所としては世界最大級の規模を誇ります。パイプを通って落下する水の量は毎秒276トン、時速72キロに達します。この水の落下エネルギーを利用し、玉原発電所では最大出力120万kwの発電を行います。この発電量は一般家庭40万世帯分の電力に相当します。

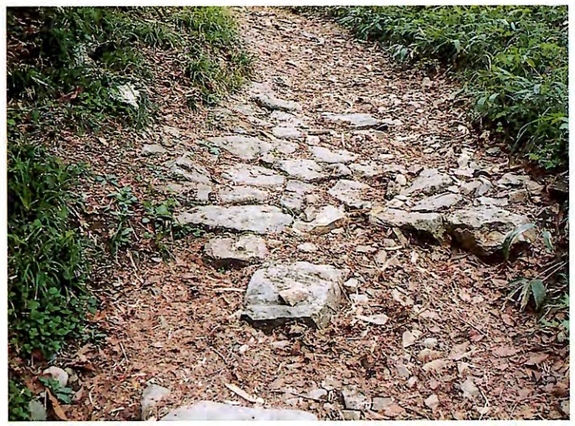
玉原湖周辺は、迦葉山、鹿俣山、尼ヶ禿(あまがはげ)山に囲まれた風光明媚な高原地帯で、高原の周辺部にはブナの原生林が広がっています。また、ダムの至近には小尾瀬と呼ばれる玉原湿原が広がり、貴重な湿原植物が群生しています。ダムの建設にあたっては、これらの貴重な自然環境の保全を最優先とし、当初の計画を大幅に変更して完全地下式発電所が採用されました。

玉原ダムは全インナーシェルと呼ばれる岩石や砂れきを積み上げ、その上にアウターシェルとして岩石・砂レキを積み上げるロックフィル式によって建設されています。尼ヶ禿(あまがはげ)山の山頂からは、岩石で積み上げられた広大な斜面を有する玉原ダムを一望できますが、露出した岩肌は周囲の自然景観に溶け込み、玉原湖の景色の一部となっています。

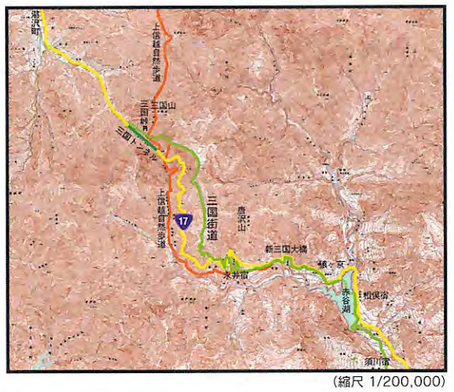
三国峠の道（旧三国街道）みくにとうげのみち（きゅうみくにかいどう）

概要

- 所在地　利根郡新治村
- 路線名　三国路自然遊歩道（旧三国街道）
- 年　代　慶長3年（1598）
- 構造形式　石畳ほか
- 管理者　新治村



往時の石畳が今に残る



（縮尺 1/200,000）

関連DATA

永井宿

峠にある三国権現

峠にある「三国峠を越えた人々」の碑

国道17号三国トンネル

三国街道は、中山道の宿場町である高崎宿で中山道と分岐（現在の高崎市本町と赤坂町の交差点）し、金古、渋川、須川、相俣、猿ヶ京、永井など県内14の宿を経て越後に至る街道です。三国街道は太平洋側と日本海側とを結ぶ最短ルートであり、多くの旅人が利用しました。また、この街道は越後米や海産物などとともに佐渡で産出した金を江戸に運ぶ重要な運搬路でもありました。そのため、元和6年（1620）には吾妻川を渡る渡し場に杢ケ橋関所（現在の渋川市南牧）が、寛永8年（1631）には猿ヶ京関所が設置されました。

三国峠は海抜1244mで、峠には三国権現が祀（まつ）られています。三国権現は、赤城神社（上野）、弥彦神社（越後）、諏訪神社（信州）の三神を勧請（かんじょう）したと伝えられる権現で、多くの旅人が参詣しました。また、三国峠は群馬・新潟両県の県境で、三国山と稲包山の鞍部にあることから、古くは上野、信濃、越後の3国の国境いであったことに因（ちな）んで三国峠と呼ばれたとの説もあります。

三国街道の峠付近には、多くの宿場と湯治場がありました。国道17号、赤谷川に沿って、布施宿、須川宿、相俣宿、永井宿の宿場があり、温泉としては、現在の湯宿温泉、猿ヶ京温泉、法師温泉とともに笹ノ湯温泉、湯島温泉などがあり、旅人の往来で賑（にぎ）わっていたことがわかります。なお、笹ノ湯温泉、湯島温泉の二泉は相俣ダムの建設によって水没することとなり、猿ヶ京温泉郷として統合されて今に至ります。

太平洋側最後の宿である永井宿は、ここから三国峠までの道が、積雪のために閉鎖されるほど山深い宿場町でありましたが、本陣から旅籠まで合計33の宿があったと記されています。上越を結ぶ街道には、清水峠越えのルートもありますが、勾配が急で危険であったことから、三国街道は五街道に次ぐ要路として大名の参勤交代、物資の輸送などに多く利用されてきました。

当時の面影を残す山中の細い踏み分け道は、現在では「三国路自然遊歩道」として親しまれ、道筋の至るところに史跡が残り、中腹にはニッコウキスゲをはじめとする高山植物の群生を見ることもできる人気のコースとなりました。

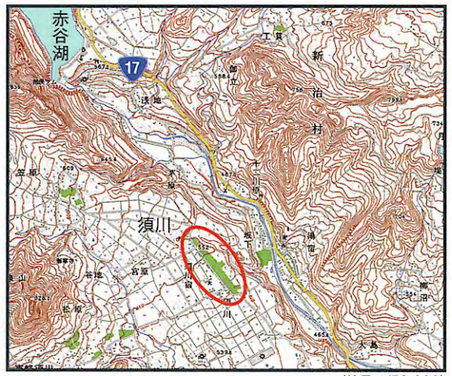
本陣の面影と伝統工芸を今に伝える「たくみの里」

須　川　宿 すかわじゅく

美しく懐かしい景観を持つ須川宿の街並み

概要

- 所在地　利根郡新治村須川
- 路線名　町道　須川笠原線（旧三国街道）
- 年　代　承応・万治年間（1650年頃）
- 構造形式　街並
- 管理者　新治村ほか



（縮尺 1/50,000）

関連DATA

出桁セガイ造りの民家の街並みは観光の人気スポット

桃山建築の香り高い泰寧寺（たいねいじ）の山門

野仏めぐりの一つの馬頭観音

「たくみの里」の一つ、竹細工の家

新治村の中央には国道17号が南北に走り、国道沿いには下新田、今宿、布施、須川、相俣、猿ヶ京、永井など古くからの宿場町が並んでいます。須川宿は高畠山の南面、赤谷川右岸の段丘地（須川平）に位置しています。旧三国街道の宿場として確立されたのは、承応・万治年間（1650年頃）と推測され、宿には本陣、脇本陣、問屋、宿屋、茶屋などが軒を並べ、中山（高山村）、永井と並び活気を呈していました。

須川宿は高台にあることから用水が乏しく、天明5年（1785）全26条からなる「火之用心村定之事（ひのようじんむらさだめのこと）」と言う厳しい掟を設けて宿場を火災から守って来ました。

明治以降になると、信越本線や上越線などの鉄道の開通に伴い、宿場の活気が失われましたが、そのことが昔の宿場の面影を現代に残すこととなりました。

須川宿は、旧建設省（現国土交通省）の「歴史国道」に県内で唯一選定されたのに伴い、平成11年（1999）から3年をかけて町の通りを全面的に整備し、「たくみの里」として生まれ変わりました。旧街道の通りの両側には小川が流れ、通りには上州特有の出桁セガイ造りの民家が、切妻の妻面を通りに面して整然と建ち並んでいます。それらの家々は、さまざまな匠（たくみ）たちの家や資料館、旅館などになっており、「そば打ち」、「藍染め」、「紙すき」、「わら細工」などの匠たちによって、地域に代々受け継がれてきた伝統工芸を体験することができます。その種類は20数種に及び、誰でも気軽に体験できるとあって、家族連れやグループに人気があり、今では年間50万人近い観光客が訪れる観光地となっています。また脇本陣跡には、旧三国街道・須川宿として栄えた歴史を紹介する須川宿資料館があり、さまざまな資料を展示、再現された旧本陣の上段の間が往時の雰囲気を伝えています。